なんぶの里

南部中学校だより
令和７年１０月１日発行

【学校教育目標】
夢・希望を抱き、未来を逞しく生き抜く生徒の育成
～　情熱とチームワーク　～

実りの秋に寄せて

校　長

先週あたりから、吹く風がさわやかに感じられ、秋の訪れを実感するようになりました。
よく『〇〇の秋』と言われますが、生徒の皆さんをはじめ保護者、地域の方々にも『実りの秋』となることを祈念いたします。
ここでひとつインドのあるお話を紹介したいと思います。
あるところに、お金持ちではあるが愚かな人がいました。ふと他人の家を見ると、三階建てで美しく、自分もこのような高層の家を作ろうと思い立ち、大工さんを呼んで建築を始めました。大工さんは家の基礎を作り、二階を組み、それから三階を作ろうとしました。
しかしこれを見て主人はもどかしそうに叫んだのです。「わたしが求めているのは土台ではない。一階でもない。二階でもない。三階の高楼だけなのだ。はやく三階を作れ！」というお話です。土台を作らずに三階を作れというのは馬鹿馬鹿しい話です。成功している人を羨ましく感じた事は、おそらく誰でもあるでしょう。しかしその裏にある長期の努力に思いを馳せる事はあまりないのではないでしょうか。野村克也さんは「努力に勝る才能なし」と言いました。才能があるかどうかも努力しなくては分かりません。自分の進むべき方向を見極め、そして日々精進する、この大切さをこの話から連想されます。
南部中学校の実りの秋。１つ目は、先月中旬から始まった郡新人戦。男子バスケットボール部　郡３位　県大会出場。ソフトテニス部・個人戦　郡３位、ベスト１６共に県大会出場をつかみ取りました。多くのメンバーがそれぞれの部活動で日々練習や制作活動に励んでいます。その努力の積み重ねがやがては大きな実りとなることを信じて頑張っています。今後の活躍が期待されます。
２つ目は、合唱コンクールです。先月２２日から、本格的に各学級での合唱への取り組みが開始されています。合唱は学校文化の一つの象徴です。７月に台湾の学校との国際教育交流でも、全校合唱で歓迎しました。歌には人と人を結びつける不思議な力があります。合唱コンクールを通してどの学級もクラスの絆を深める機会にしてほしいと念願しています。
最後になりますが、保護者の皆様、地域の方々におかれましても、今後とも本校の教育活動へのご支援ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

【１０、１１月の主な予定】 最終下校１６：３０

【１０月】
１日　一斉下校　１４:４０
３日　３年進路説明会
７日　３年実力テスト③
８日　３年実力テスト③

１３日　スポーツの日
１４日　定期試験範囲表配布
１５日　一斉下校　１４:４０
１７日　合唱コンクール
（佐倉ハーモニーホール）
２０日　一斉下校　１５:１０
２２日　一斉下校　１４:３０
２３日　生徒会役員選挙
２４日　前期終了　通知表配付
生徒集会
試験前諸活動停止（～２９日）

２７日　後期開始
２８日　定期試験②　給食なし
一斉下校　１１:５０
２９日　定期試験②　給食なし
一斉下校　１２:１０
３１日　第一部会音楽発表会

【１１月】
３日　文化の日
４日　教育相談（～１１日）
１３日　１年生校外学習
２３日　勤労感謝の日
２４日　振替休日
２５日　３年生三者面談
１,２年生保護者面談（～２８日）

【 佐倉市いじめ防止子供サミットに参加して 】

７月３１日（木）に佐倉市役所で「佐倉市いじめ防止子どもサミット」が開かれ、市内の小・中学校の代表生徒がいじめ防止について討議しました。

３年Ａ組　代表生徒

私は夏休み中、「いじめを見たときにできることを考えよう」をテーマにして、市内の小中学生と話し合いを行ってきました。いじめが起きた時、いじめをする人、いじめられる人のほかに、周囲で見ているだけの傍観者の存在があります。そんな傍観者にならないために、私たちにどのようなことができるか考えてきました。この話し合いは、小学生・中学生別に８グループに分かれて行われました。私たちの班では、傍観者になってしまう理由について「自分が次にいじめられてしまうかもしれないから」という意見や「自分には関係がないと思っているから」といった意見が出ました。いじめを見つけたとき、実際にどのようなことができるかを話し合った時には「先生に伝える」や「いじめられている人の味方でいる」「直接注意する」といった意見が出ました。私はこのサミットに参加して、いじめを見て見ぬふりをするような傍観者には絶対になりたくないと思いました。いじめをなくすために私たちにできることがたくさんあると思います。この南部中学校でいじめによって悲しむ人、苦しむ人が一人も出ないように勇気を持って行動するようにしたいと思いました。

最後に私たちの班が決めたスローガンを発表します。スローガンは「『傍観者』の勇気が味方になる」です。実際にはいじめていない『傍観者』でも見て見ぬふりをすると加害者になってしまうことがあります。見て見ぬふりをせずに勇気をもって行動することが大切だと思ったのでこのスローガンにしました。この取り組みを機にみなさんにもう一度いじめについて考え直してみてほしいと思います。

【 佐倉平和使節団に参加して 】

佐倉市では毎年、市内の中学生代表が被爆地を訪問し、戦争の悲惨さ、平和の尊さを学ぶ佐倉平和使節団を実施しています。今年度は、８月８日（金）から１０日（日）にかけて、長崎を訪問しました。

２年Ｂ組　代表生徒

佐倉平和使節団に参加して、平和について深く考える機会を得ました。普段の生活では戦争や対立は遠い出来事のように感じがちだけれど、交流を通じて「平和は当たり前ではなく、努力によって守られているもの」だと実感しました。言葉や文化の違いがあっても、お互いを理解しようとする気持ちがあれば、心は通じ合うことがわかりました。笑顔で話し合い、お互いの文化を紹介し合う中で、遠い壁ではなく、むしろ互いを豊かにする架け橋だと気づきました。また、自分たちの町の魅力を伝える中で地域の歴史にも平和を願う人々の思いが込められていることを改めて感じました。平和は大きな理想がありますが、その第一歩は相手を尊重し、身近な人と理解し合うことだとわかりました。今回の経験を通して学んだ平和の大切さを忘れず、これからの学校生活などにつなげていきたいと思いました。

２年Ｂ組　代表生徒

私は夏休みに、佐倉市平和使節団の一員として長崎県を訪問しました。その中で一番印象に残ったのは「浦上天主堂」です。浦上天主堂はキリスト教の信者の方々にとってとても大切な場所でしたが、爆心地から約５００メートルのところにあったため、原爆で全壊・焼失してしまったそうです。その後、再建され、今の形になっていますが、今でも当時の悲しみを感じさせる跡が残っていました。実際に見学して、多くの信者の方が亡くなり、どれほど悲しい思いをされたのかを考えると、私も胸が痛くなりました。命の大切さを忘れずに、これからの生活を大事にしていきたいと強く思いました。原爆は一瞬でたくさんの人々の命や暮らしを奪ってしまいます。核兵器がどれだけ多くの人を不幸にするかということを、私たち若い世代やこれからの子どもたちにも伝えていくことが大切だと思いました。